

## 第46回全国高等学校・中学校剣道 (部活動) 指導者研修会



審判法の様子

第46回全国高等学校・中学校剣道(部活動)指導者研修会(主催＝日本武道館・全日本剣道連盟・全国高等学校体育連盟剣道専門部・日本中学校体育連盟剣道競技部、後援＝スポーツ庁・全国都道府県教育長協議会・全国市町村教育委員会連合会・千葉県教育委員会)は、1月4日～6日の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで実施された。今回は、昨年同様、新型コロナウイルス感染症対策として、参加募集定員を縮小し、高校の部のみを対象に、各都道府県より1名ずつ募集し、(東京都2名)45名にて行われた。

本研修会は部活動の理解を深め、剣道の専門的な知識と技術の充実を図り、もって指導者の資質向上に寄与する目的で講義や実技指導が行われた。

### ◆1日目(1月4日)

開講式では、主催者挨拶として白井日出男日本武道館理事長が「我が国の武道は単に勝ち負けの手段ということだけではなく人間形成の力になるものです。参加者の皆様には今日から3日間この研修会で得られたものを、帰ってからぜひ多くの方々に伝えていただきたい」と述べた。続けて、土崎祐一郎全国高等学校体育連盟剣道専門部部長兼専門委員長が、来年度より参加者の公務の事情を鑑みて研修会の日程が10月に変更となることと、本研修会の内容に

ついて説明を行った。最後に講師を代表して松田勇人講師が「高等学校の指導は、ややもすると試合に偏る、試合偏重の傾向が多く見られる。この研修会で剣道の本当の魅力、いわゆる生涯剣道に繋がる魅力を再発見していただきたい。そして次代を担う高校生達が生涯にわたり剣道に魅力を感じ、続けていけるような指導を現場でお願いしたい」と参加者に呼びかけた。

開講式終了後、香田郡秀特別講師が「新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合・審判法の運用について」をテーマに教養講座を行った。香田講師は「審判が良くなると試合は良くなる。試合が良くなると剣道が良くなる」という言葉を紹介し、運営要領の手引きを用いてその説明・解説をしながら現状の高校の試合の問題点や改善策について言及した。また、参加者から、つば競り合いの解消に至る時間の一呼吸の解釈や反則の見極め方について質問があり、その解説も行われた。



香田特別講師による教養講座

その後、松田講師により礼法、足さばきや素振りなどの基本技を中心とした実技指導法が行われた。「空間打突の際は1本1本肩まで振り切る意識を持つ」「発声は腹部に力を入れて吐き切ることを意識する。そうすることで打ち切ることに繋がる」など、気剣体の一致の重要性について言及があった。

1日目の締めくくりは谷勝彦<sup>たにかつひこ</sup>講師指揮のもと、切り返し、打ち込み、地稽古が行われた。谷講師は「指導の計画を立て、適切な手段・理由・方法を生徒に伝えることは効果的な稽古に繋がる」と参加者に呼びかけた。

## ◆2日目（1月5日）

2日目は午前6時より、講師と八段を取得している参加者の元立ちのもと、早朝稽古が行われた。稽古後は松田講師より「元立ちの先生の気迫を崩す勢いで、掛かっているかなくてはならない」と講評が述べられた。

休憩を挟み、松田講師より日本剣道形の留意点の説明がされた後、それぞれの形の解説をしながら実技指導が行われた。松田講師は「昇段審査のための形をするのではなく、形は剣道の原点であるという気持ちをもってほしい」と参加者に呼びかけた。

その後、谷講師より木刀による剣道基本技稽古法の指導が行われた。



午後は審判法実習として初めに香田講師による講話が行われた。香田講師は「試合者の動きを予測し、自分の立ち位置を理解することが重要である。皆さんには技術だけでなく審判の技能を身に付けてほしい」と呼びかけた。その後、東日本ブロックと西日本ブロックに分かれて実際に試合を行いながら審判指導が実施された。試合を止めるタイミングや審判員の具体的な位置取り方法、有効打突などについて各講師より解説が行われた。

その後の実技研修では、全員で切り返し、打ち込み、掛かり稽古、地稽古を行った。稽古後、谷講師より「お互いの気のやり取りを行い、心と技の変化を意識するという、打つまでの動作は剣道、打つからは身体運動である。打ったあとの結果ばかり意識するのではなく、打つ前のやり取りを考えてほしい」と講評が述べられた。

2日目の締めくくりは①体罰問題②部員数の減少について③試合・審判法についての3つの課題をテーマに意見交換会を行った。参加者からは各都道府県の取り組みについて「強くなる稽古を行うのではなく、初心者を支えようという意図で稽古会を開催している」「中学校から始めた生徒を対象とした大会の運営のためにクラウドファンディングを利用した県がある」などの意見が挙げられた。

## ◆3日目（1月6日）

昨日同様、午前6時より早朝稽古が行われた。稽古講評として中島博昭<sup>なかしまひろあき</sup>講師より「先生方は生徒のことで頭がいっぱいになることもあるかと存じますが、ご自分の修行も頑張ってください」と激励の言葉が送られた。

休憩を挟み、松田講師による、しかけ技、出ばな技、応じ技の実技指導が行われた。松田講師は「打った・打たれたということだけでなく、どう自分を高めていくか考えることが剣道である。そのことをぜひ生徒さんに伝えてほしい」と参加者に呼びかけた。

続けて谷講師指揮のもと、切り返し、打ち込み、掛かり稽古、地稽古、追い込みといった内容の実技研修が行われた。講師講評として軽米良臣<sup>かるこめよしおみ</sup>講師が「生徒たちは師匠・先生たちの姿をよく見ており、さらに師匠の姿がうつっていく。それは指導を行う上で重要となるため、意識するようにしてほしい」と述べた。

閉講式では和田健<sup>わだたけし</sup>日本武道館振興課長が代表者に修了証を授与し、講師代表として谷講師が講評を行い、土崎全国高等学校体育連盟剣道専門部部長兼専門委員長が主催者挨拶を行い研修会の全日程を終了した。